

2019年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2020年2月28日(金)11:30~12:00

会場：横浜YMCA学院専門学校 6階606教室

出席者：加藤智也（東京福祉専門学校）、生井知三校長、三浦美紀学科長
加藤玉樹教務主任

欠席者：星竜平（訪問看護ステーションみのり）

列席者：奥原孝之（神奈川県立保健福祉大学）、坂本俊夫、名古屋和茂、宮田千恵子
遠藤陵晃、高橋博美（記録） 計10名

議事次第

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 定足数確認

星竜平委員が欠席であるが、すべての権限を加藤智也委員に委任する旨委任状をいただいている。委員5名のうち4名が出席しているため定足数をみたしていることが確認された。

- 4 委員長・議長選出

互選により加藤智也委員が委員長及び議長に選出された。

- 5 議事

①新カリキュラムについて

テーマ1「19年度学生報告と20年度新入生の現状・カリキュラム改訂に伴う今後の本校作業療法教育について」報告 三浦美紀学科長より（別紙参照）。

テーマ2「新カリキュラムの導入について」名古屋より報告（別紙参照のこと）

②自己評価結果の評価

事前に専任講師全員から提出された自己評価結果及び学生アンケート結果について報告がなされた。

③課題の共有と意見交換及び④改善方策の検討

1. カリキュラム改訂に伴う今後の本校作業療法教育について

（委員より）

- ・1年生の12名中4名が人間関係で退学している。これはいかななものか。そもそも12人という小規模クラス編成では学生がこの密な関係が4年も続くという絶望感を抱きやすい環境。そのためこの絶望感から逃れられないというのも致し方ないと思うが、何とかできないだろうか。高校から来た若者としてもストレスが高くその点も工夫が必要ではないか。一つの解決方法として、限られた縦の学年とのつながりを持つような環境作りが必要なのではないか。

（学科長より）

- ・このような限定された単一集団を形成し続けるのは大人でもかなり難しい。口頭で年齢や

学年など枠組みを超えた関係の必要性について、教員が学生たちに伝えるだけでなく、何らかの仕掛けが必要だろう。

(委員より)

- ・縦のグループを作り、昔も提案があった縦セミナーを作ろうというプランを実現させられたらいいのではないか。

(列席者より)

- ・この話は以前のミーティングでも上がっているが具体的な企画は未定である。

(委員より)

- ・これまでYMCAでは、行事にその役割を持たせていただろうが、大学にはサークル活動というある意味、枠組みが緩やかで柔軟な集団が存在する。それらがないと自然に小集団の関係が形成されにくいのではないだろうか。
- ・他学校は先輩が中心になってグループのセッティングや関係組織を運営しているなど、工夫がなされている。枠の設定は様々だろうが、学校としての仕掛けは必要だろう。

(列席者より)

- ・卒業生との機会をつながれないか。仕掛けが出来たらいいのでは。かつてあった卒業研究発表時に卒業生を招くなどが復活されてもよいのではないか。

(校長より)

- ・それについてはOBはやる気があると聞いている。つなげられる可能性はあるだろう。

6. 閉会

以上

文責：高橋